

## FALIA 懸賞論文2021 審査講評

審査委員長 米山高生

今回の懸賞論文には33編の応募がありました。昨年より応募点数が若干少なかったですが、内容については平均的な水準が上がり、力作が多かった印象です。日本では10月以来COVID-19感染者数が低い水準で推移しているものの、世界を見渡せば、いまだに感染者が増大している地域もあるので、留学生の皆さん方の中には母国への帰省などについて不自由な方もいらっしゃることでしょう。また日本の大学教育の現場においても、大講義については遠隔講義が継続されており、期待したような大学生活を過ごせないというお悩みの方もいらっしゃるかもしれません。留学生の皆様にとって、何かと厳しい学習環境および研究条件のもとで、FALIA 懸賞論文コンテストに力作を応募していただいた留学生の皆様には深く感謝申し上げます。

応募者の出身地域は、昨年同様に、東アジア・東南アジアが中心ですが、その他の地域からも投稿がありました。今年の特徴は、日本語による論文が数編見られたことです。英語の論文の投稿を認めて以来、日本語論文は激減していましたが、少し復活の兆しが見られたかもしれません。英語にせよ、日本語にせよ、その巧拙については、審査の対象であるものの、審査委員会は内容重視という姿勢で選考しています。せっかく日本に留学しているのですから、思い切って日本語論文にチャレンジする人がいてもよいと思います。

審査過程の概要は次の通りです。第1次審査で約20編に絞り込み、第2次審査では絞り込まれた論文すべてについて選考委員が細かく得点付けをおこないました。そして最終的に順位づけは、最終審査委員会を対面で開催し、慎重に審議した結果、行いました。このプロセスとは独立して、事務局によって専用ソフトを活用して、すべての論文について、盗用や剽窃のチェックが行われました。剽窃とまではいえませんが、やや疑わしいという結果が出たものもありました。選考においては、その結果を参考にいたしました。今後論文の応募を用意される方へのアドバイスとして、検索したウェブ上の資料について、安易にコピー&ペーストしないということをお伝えしておきます。

最終審査の結果、第1位にフィリピンのRaquel Onofre Celeste (Ms.)さんの「Impacts of Conditional Cash Transfer Program on insurance demand of the poor: Evidence from the Philippines.」が選考されました。条件付き付加給付プログラムは、貧困対策としていくつかの国で行われていますが、この論文は、フィリピンの条件付き付加給付プログラムが、社会保険への需要と正の因果関係にあるということ、計量モデルによって実証しています。その着実な分析力とともに、SDGsの目標にも掲げられている貧困の撲滅という健全な問題意識をもっていることにも各委員から高い評価が与えられました。

委員会では、第2位の論文について相当長い議論を行いました。その結果、検討対象とな

った論文についていずれも第 2 位とするほどの差がなく、またそれぞれに第 2 位に推すだけの論文がなかったことから、第 2 位は「なし」として、そのかわり第 3 位に次の 4 つの論文を選考しました。

Aditya Wibawa (Mr.) さん (インドネシア) 「Analysis of Asset growth on Sharia life insurance industry in Indonesia」

Daladawaththage Nilmini (Ms.) さん (スリランカ) 「The impact of Service Quality on Public servants' satisfaction in “Agrahara” Life Insurance Scheme in Sri Lanka」

Orelie Bathan Delas Alas (Ms.) さん (フィリピン) 「Is Income the main determinant of Insurance Expenditures? Evidence from the Philippines」

Pascal Muromba (Mr.) さん (ジンバブエ) 「An investigation into the impact of Brand Equity on Mobile Micro Life Insurance service purchase decisions, A case study of Mobile Telecommunication Company Econet Wireless Zimbabwe」

最初の論文は、シャリア生命保険に関する分析を行った研究です。これまでの応募論文では、イスラム保険の仕組みを紹介する論文が多かったのですが、計量的な分析を行うものは多くありませんでした。その意味で、新鮮な研究です。分析結果などで不十分と思われるところがありましたが、将来性のある論文であることを、審査員は高く評価しました。

第 3 位の次の論文は、スリランカの公務員に対して独占的な保険営業をおこなっている保険会社のサービスの質と顧客満足度の関係について実証した研究です。堅実な手法により仮説検証した点は大いに評価できるが、対象会社が独占的な保険会社であることから、結論については容易に推定できるものです。そこで、このような保険会社が、顧客満足度を向上させる行動を引き起こすようなインセンティブな設計の研究へと道を切り開いて欲しかったと感じました。

第 3 位のその次の論文は、保険支出がどのような要因によって決定されるのかということと計量モデルによって明らかにしようとする論文です。結論的には、安定した所得と社会保険の充実による家族の連帯が重要であるので、政策的にこれらの要素に配慮すべきであるとしています。

第 3 位の最後の論文は、ジンバブエの事例から新しい保険チャネルの動向を紹介したものであり、分析は相関分析にとどまるものの、保険マーケティングという面白いテーマに果敢に挑戦した点で評価されました。

惜しくも入賞をのがしましたが、今回は 8 編の論文が努力賞となりました。入賞論文と努力賞論文との決定的な差はありません。論文としての仕上りの良さ、引用的的確性、論理的な展開、必要十分な参考文献など、細部の点で違いが決まってきます。来年論文の応募を予定されている方は、問題意識、分析力、結論の妥当性など論文として大事なポイントを

備えた論文であるならば、推敲を重ねることが入賞へのひとつの鍵であることを学んでいただきたいと思います。

留学生の皆様が、これを機会に保険というものを知り、また保険が社会の隅々に行き渡るものであり、かつ経済活動とも密接に結びついていることを理解していただけるものと期待します。そして皆様が祖国に帰られてから、どんなかたちでも結構ですから、保険をお国のために役立てていただければ嬉しく思います。

最後に、参加してくれたすべての留学生の皆様と留学生を支えてくれている大学教員および職員の皆様に感謝申し上げるとともに、この制度を支えてくれている FALIA の皆様にも感謝したいと思います。